

平成25年度 広報紙に関するアンケート調査について

平成26年2月7日・総務課秘書広報室

I 実施スケジュール

平成22年11月2日（火）…市民生活課へ発送世帯の抽出依頼
(20代～70歳以上の6階級で各140人抽出。男性406人・女性434人)

平成22年11月12日（金）…アンケート発送

平成22年11月26日（火）…アンケート回答締切り（当日消印有効）

※送付した調査票は、別添のとおり。

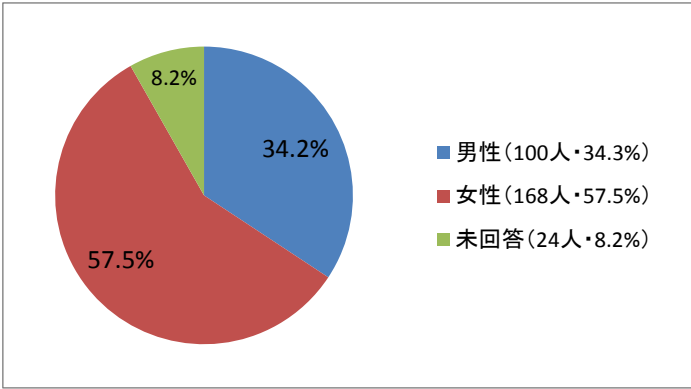
II 回収結果

アンケート調査票発送数……………840件
返送されたアンケート調査票……………7件
有効発送数……………833件
回答数……………292件
回収率……………35.1%（前回45.6%）

III 集計結果

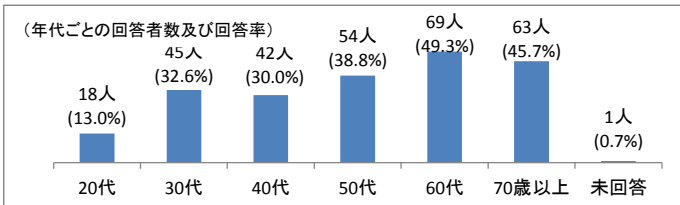
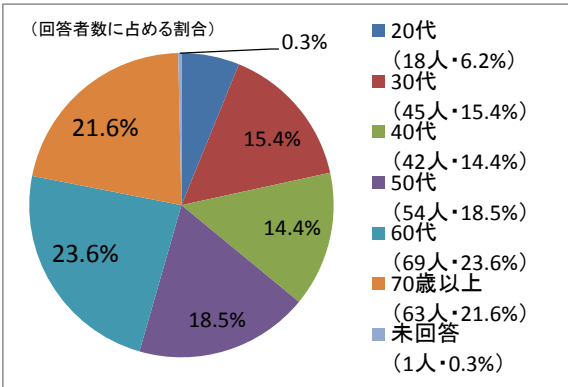
別添のとおり

【問1：回答者の性別】



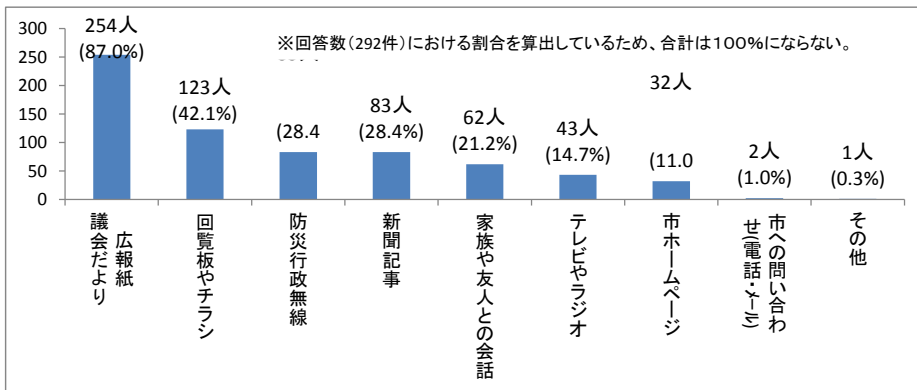
回答者のうち、約6割が女性という結果になった。アンケート対象者(840人)は男性406人(48.3%)・女性434人(51.7%)を抽出したため、相対的に女性が回答した割合が多いと言える。

【問1・回答者(292人)の年代構成など】



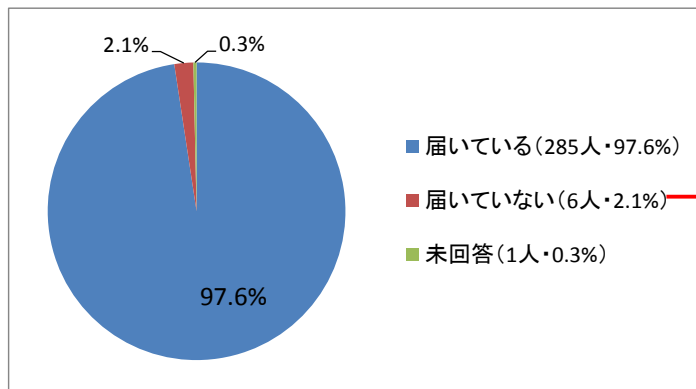
今回、対象者は年代別に140人ずつ同数を抽出した。60代及び70歳以上で回答者全体の約45%を占め、回答率も約5割と高い。その一方、20代の回答者数の割合は6.2%、回答率も13%と低くなっている。回答率が高い年代ほど広報紙に対して何らかの興味・関心を持っていると言えるため、若年層の関心を高める工夫をする必要がある。

問2 (行政情報の入手方法)

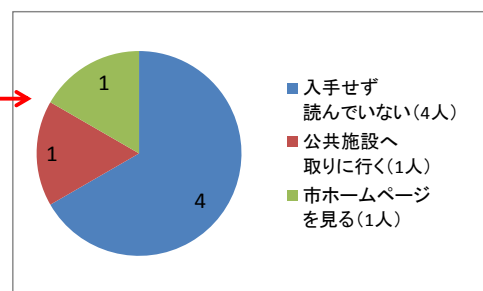


広報紙や議会だよりで行政情報を入手すると答えた人は87%と高く、情報の入手方法として紙媒体が大きな役割を果たしていると言える。また、回覧板やチラシも比較的高い割合となっている。ただし、この2つは後の自由記述で「発行回数を減らした方がいい」「配り物が多くてムダ」という意見もあった。

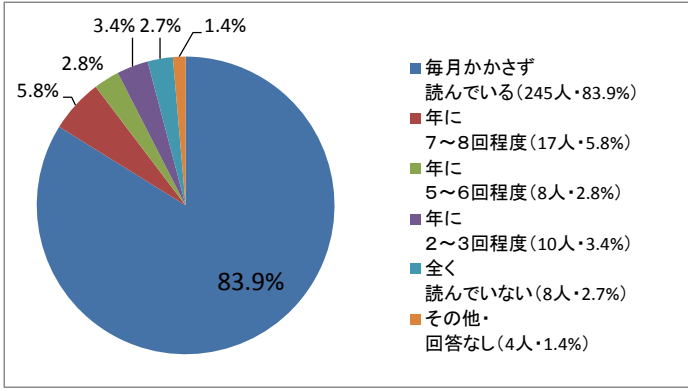
問3 (広報紙が届いているか)



問4 (問3で「届いていない」と回答した人の広報紙の入手方法)

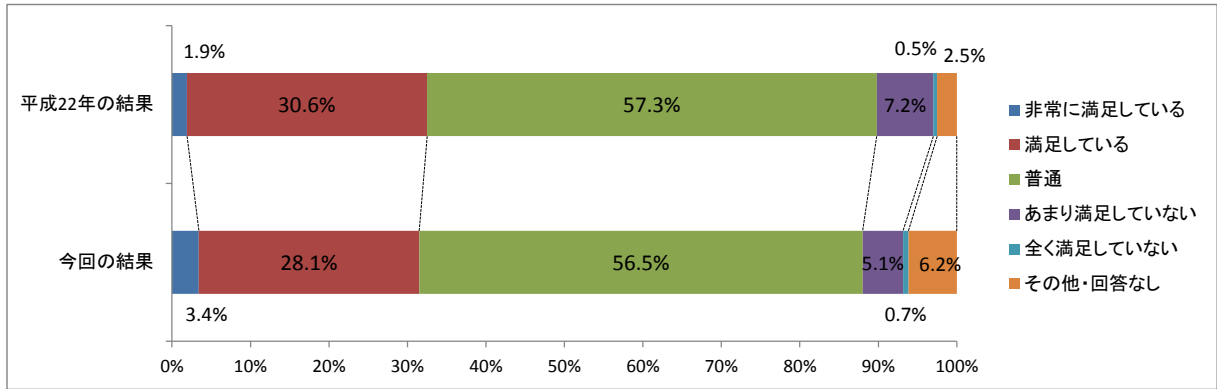


問5 (広報紙を読む頻度)

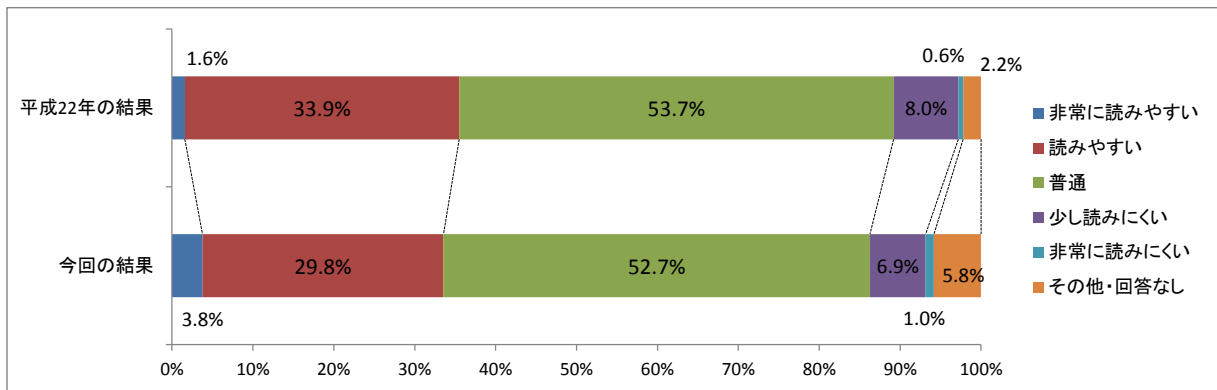


「毎月かかさず読んでいる」と答えた人が8割以上いるが、アンケートに回答している時点で広報紙に対して何らかの期待や関心を持っていると思われることを考慮すると、上の問4と併せて参考程度の数値としてとらえておく結果であると思われる。

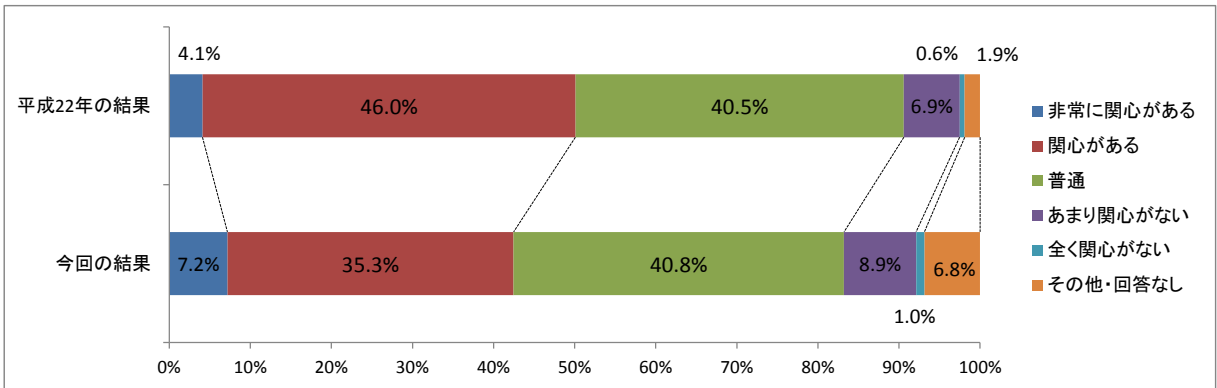
問6-1 (満足度)



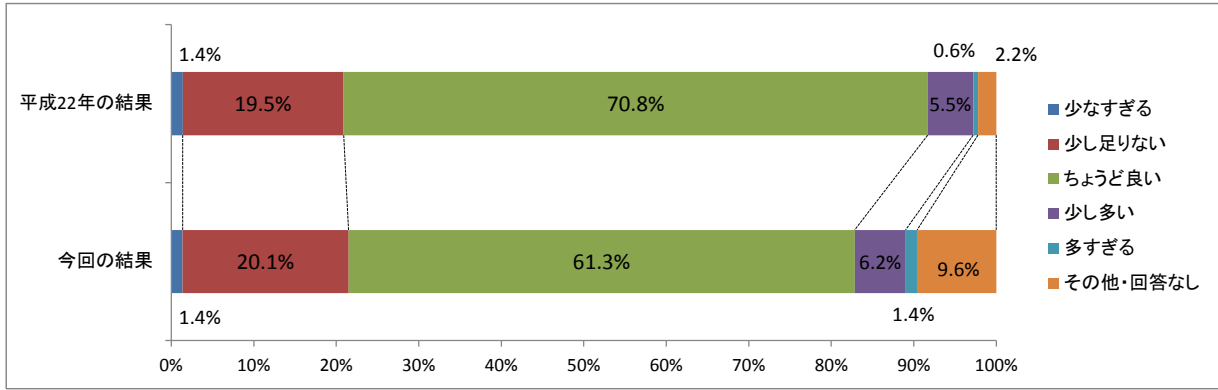
問6-2 (読みやすさ)



問6-3 (内容への興味・関心)

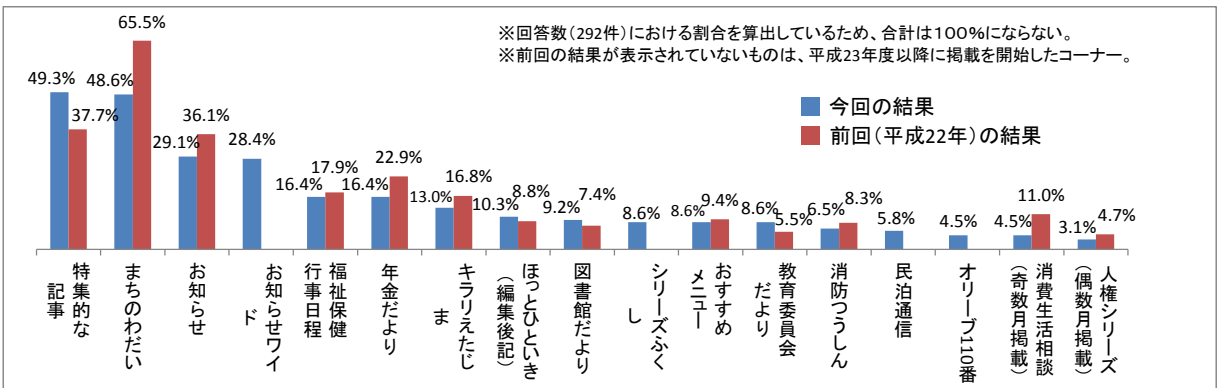


問6-4 (情報量)

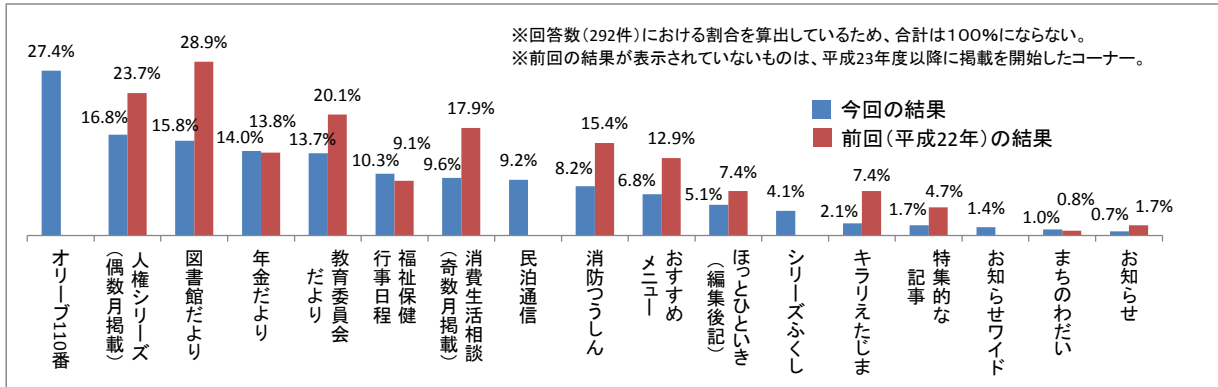


問6の各設問については、前回調査時と同じ聞き方をしているため、前回結果と比較した。どの設問も良い評価ととらえる回答の割合が微減しているが、「その他・回答なし」の割合が増えていることの影響もあり、おおむね前回調査時と同じ評価と言える。良い評価が増えなかった要因の一つとして、情報量についての設問で「少し少ない」と答えた人が約2割と、前回調査時と同程度いることが挙げられる。前回調査時から新たに増えたコーナーがあり、年間総ページ数はやや増えている(平成22年度は300ページ→平成24年は320ページ)中で「少し少ない」と答えているのだから、読者(市民)が求めている情報は何なのか、もう一度考える必要があると思われる。

問7 (よく読む内容)



問7 (あまり読まない内容)



(よく読む内容)
 特集的な記事やまちのわだい、お知らせ記事を読む人の割合が比較的多いという結果になり、前回調査時と同じような結果になった。ただ、まちのわだいを読むという割合の減少が目立つ。自由記述欄では「保育園や学校関係の内容が多い」などの意見もあったため、取り上げる内容や地域に偏りがいないか、号ごとに整理して地域バランスや掲載内容にある程度配慮する必要があるかどうか、検討する必要がある。
 (あまり読まない内容)
 オリブ110番の割合が多かった。オリブ事業は市の特徴的な事業であるため、掲載する時に何らかの工夫をする必要がある。全体的には、前回調査時よりもあまり読まないという割合は減少しており、前回行った紙面リニューアルはある程度効果があったと考えられる。